



## 「温かい」というキーワード～令和3年度卒業式～

3月9日、春の訪れを感じさせてくれる温かな日差しの中、第41回卒業式を多くの保護者の方々のご参列を賜り、挙行いたしました。卒業した3年生は、この2年間、コロナ禍による非日常に耐える日々でした。中止となった部活動の大会、時間短縮を余儀なくされた学校行事。臨時休校や分散登校で友だちと会えない日々。寂しさと悔しさと涙を流す日もあったことと思います。それでも、卒業した3年生は不満を漏らすことなく、与えられた条件の中で、一生懸命に学校生活や学校行事に取り組みました。吹奏楽・駅伝・ロボコンで全国大会に出場するなどの輝かしい功績を残しましたが、何よりも人に優しい生徒たちだったと言えます。最後の最後まで、友だちを思いやる姿は多くのことを教えてくれました。

卒業生が最後の学級活動を終え、校庭での見送りを待つ間、多くの保護者の方々から、「こんなに温かい学校で中学校生活を送れたことに感謝しています。」というお言葉をかけていただきました。終始一貫して、「温かい」という言葉がキーワードである卒業式でした。103名の卒業生の幸せを願い、卒業後も見守っていこうと教職員で誓い合いました。



## 「自ら」～令和3年度立志式～

新型コロナウイルス蔓延防止のため、3月15日延期し、令和3年度立志式を挙行いたしました。2年生一人ひとりが舞台上で将来の夢を発表しました。恥ずかしさをかなぐり捨て、背筋を伸ばして堂々と誓いの言葉を発表するその姿から、将来への強い意志を感じ取ることができました。

卒業式の準備においては、2学年の生徒たちだけの手で卒業式の会場を整備しました。もちろん、最初から順調にいったわけではありません。何をどこから手がけたら良いのか分からず、無駄に時間も使いました。しかし、その時間は決して無駄ではなく、2学年の生徒たちが葛藤し、悩み、最終的には成長するための貴重な時間だったと言えます。その成果は、卒業式翌朝の片付けから見取ることができました。誰から指示されることなく、状況判断をし、自分がやるべき事を見つけて動く。そこには数日前よりも一回り成長した2年生の姿がありました。

自分を変えることができるのは自分だけです。立志を迎えるにあたり、「自ら」の意思で行動することの大切さを身に付けた2年生は、来年度の真岡東中を立派に支えてくれると確信します。



## “地球人”という捉え方 ～総合的な学習の時間の発表会より～

3月15日の午前中には、1年生の総合的な学習の時間の発表会が行われました。1年間の総合的な時間の中で、自らの意思でテーマを設定し、そのテーマに沿って自分なりの方法で調べ・考えてきた内容の発表でした。1年生とは思えないほどの立派な態度、分かりやすいプレゼン力。まさに生涯にわたって生きるための「術」を身に付けたことを証明しました。テーマは、SDGs（持続可能な開発課題）であり、全世界が取り組まなければならない課題です。「教育格差」「環境問題」「飢餓問題」「水の問題」など、地球規模で考え、解決しなければならない課題について、実態を把握し、自分なりの考察を述べられたことは大きな成長に繋がったことと思います。

SDGs という、広大なテーマではありますが、「地球人」である一人として考え、行動しなければならないことを、1年の生徒たちが教えてくれました。

